

4月3日

主教リチャード

Richard of Chichester

(1197/99~1253.4.3)

～オックスフォード大学総長～



「A Wall painting of
St. Richard of Chichester」

イギリス、チチェスターの主教であるリチャードは、ウースターのウィッチで生まれ、ウィッチのリチャードともよばれる。幼くして両親を亡くした彼リチャードと兄ロバートの元には、多額の財産が残されていた。しかし、財産の管理人が減るに任せていたために、彼はその立て直しのため長いこと働くこととなる。

そして家計の立て直しが一段落すると、財産は兄に譲渡し、自らはオックスフォードやパリなどで学ぶ。パリとボローニャでは法学の研究を続け、博士号を得た彼は、オックスフォードに戻り、オックスフォード大学の総長を1235年から38年まで務める。

またカンタベリー大主教エドムンドの補佐官として外国に二度同伴し、大主教との友情を深めていく。

しかし、カンタベリー大主教エドムンドとイングランド国王ヘンリー3世とは対立をしていた。そのため大主教はフランスに亡命することになるのだが、大主教の世話をしていたリチャードのことも国王は快く思っていなかった。リチャードは大主教の死後、ドミニコ会の修道院でさらなる研究と教育を続け、1243年、司祭に叙任される。そしてその翌年、チチェスターの主教に選ばれるのだが、国王

ヘンリー3世はこれに反対し、主教庁への就任を拒否する。正式に主教になったのは1245年のことであった。

またリチャードは霊的な指導者として自ら模範を示すとともに、教区の教会や修道院の改革運動に取り組む。その彼の有名な言葉が以下のものである。

「主よ、あなたに3つのことを祈ります。より明らかに、あなたを見ることができるよう。より親しく、あなたを愛することができるよう。より近く、あなたに従うことができるよう。」

彼は十字軍の推進者としても知られ、1253年のサラセンに対する十字軍の軍事行動の間に熱病に冒され、死去する。 (Y)

<特禱>

信ずる者の光、魂の牧者である全能の神よ、あなたは、その言葉によってあなたの羊を養い、その模範によって彼らを導くために、しもべ、主教リチャードを公会の主教に召されました。どうかわたしたちに恵みを与え、信仰を守り、その生涯に従うことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。 **アーメン**